

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295800060		
法人名	(有)政経		
事業所名	グループホーム牧之原波津の家（1号館）		
所在地	静岡県牧之原市波津1324-17		
自己評価作成日	平成30年6月25日	評価結果市町村受理日	平成30年8月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaiyokensaku.mtiw.go.jp/zz/index.php?action_kounyo_u_detail_2017_022_kani=true&lievosvoCd=2295800060-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成30年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人に寄り添った介護を目指しています。
 残存能力を活かして生活できるよう支援していきます。
 地域の中で暮して行く事を目標に、地域との関わりに力を入れていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年法人内の異動で新管理者を迎え、中学生の体験学習を本年初めて受入れたほか、初任者研修の実習体験や高校の部活動との協力関係も始まり、異世代交流が活性化しています。また裏の畑のオーナーが小学校に貸出しをしたことから、子どもたちとの交流も生まれています。いずれも1日限りではなく、学校帰りや授業を通じて来訪数を重ねているの真摯な関わりで、特に小学校は他の学年との関係にもつながりが生まれ功奏しています。また利用者の意向でパイナップルを植栽した例や、「事務が～」という人には切手貼りや封筒詰めを手伝ってもらっていることから、利用者本位の実践が進んでいることが観えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと楽しく、自由にありのまま、地域と関わりを持って仲間と一緒に暮らす」という理念を持ち、事業所内にも掲示することにより、職員間でも共有できるようにしています。	今年から「朝礼での口頭確認を回覧に替える」簡便化を図っています。理念の唱和もおこなってはいたませんが、勤務の浅い職員も同法人からの異動のため、職員理解は確かです。利用者が当たり前のように掃除を始める姿からも浸透が見てとれます。	理念の浸透度合いについて省みる機会があると、なお良いと思います。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣施設へ訪問したり、小学生との農業体験・交流会の機会を作っています。中学生の職業体験も受け入れており、地域密着型を心がけています。地域の公民館祭りや祭典、運動会にも参加や見学をさせて頂いています。	中学生の体験学習を初めて受入れたほか、高校生の初任者研修の実習体験や部活動との協力関係も始まり、異世代交流が活性化しています。また裏の畑のオーナーが小学校に貸出しをしたことから、子どもたちとの交流も生まれています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や防災訓練を通じて認知症の人の理解を深めています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や行政、ご家族に参加して頂き、施設での取り組みや現状を説明し、問題点があれば意見を頂き、良い取り組みには賛同して頂いています。	年6回開催の内3回までを他事業所と合同でおこなう話が持ち上がっていますが、現在は未だ単独で実施しています。これまでも市会議員や民生委員がメンバーとなっているほか、消防士、訪問看護師をスポットで招いており、充実した内容が議事録から確認できます。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いています。介護相談員の派遣もあり、利用者様からの声を取り上げて頂いています。包括支援センターとの連携も大切にしています。	隔月の運営推進会議には市役所と地域包括支援センター職員が交替で出席くださり、介護相談員の来訪も3ヶ月に1度程度あります。運営推進会議に参加の家族も身近なところで気軽に質問でき、適切な回答が得られることで理解が進んでいるようです。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎週の朝礼で身体拘束についての教育があり、職員も意識しています。3ヶ月に1度、身体拘束適正化委員会を開き、身体拘束による弊害や具体的な行為について学んでいます。	法令に則り「身体的拘束適正化検討委員会」を設置し、四半期で協議の場を設けています。現在身体拘束が必要となる症状の人はいませんが、可能性がある人や気がかりな点のある人について委員会協議の場で密に検討しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼では系列グループの問題点も共有し、同じことが施設で起こらないよう注意し合っています。言葉の虐待に関しては職員同士で注意し合える環境作りに努めています。			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議や本部の研修で学ぶ機会がある。現在、後見人が付いている方もいるので職員も多少の理解が出来てきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入所の際、説明し、納得を得て印を頂いています。その後も疑問があればその都度お答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をはじめ、日頃から何かあれば意見を頂いています。意見箱も設置しています。	昨年着任の新管理者は早々に便りで挨拶をおこない、面会の折には直接会話を持つようにし、ソーメン大会・敬老会には家族も招き、できるだけ親密な時間を共に過ごすようにしています。運営推進会議にも3名前後の家族参加があります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やフロア会議で意見や提案を話し合っています。個人面接も行い、直接意見を伝えてもらう事もあります。	勤務が長い人が多く、言いやすい雰囲気がありますが、年1回個人面談を設け、勤務体系や個々の要望を聴く機会を持っています。積極的な進言をくださる人もいて、中学生の体験学習は職員の「やりたい」との声から始まっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者による個人面談や、日常の業務態度により個人評価を行い、賞与に反映しています。資格手当も充実しており、やりがいに繋がっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	朝礼や職員会議で研修しています。外部の研修が有る時には声をかけ合い、参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流を持ち、自施設のサービス向上に努めています。ケアマネ連絡会へも参加し、他事業所とネットワークを築いています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている事や不安に思う事を伺い、ご家族とも連携し、少しでも軽減できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの意見も聞きながらサービス内容を考えています。来設時にはコミュニケーションをとり、要望など言いやすい関係づくりを目指しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを提供する時には本人や家族の要望を聞き、必要なサービスを話し合って決めています。必要に応じてプランを変更しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事仕事をしたり、レクや食事など行動を共にして生活しています。農作業や料理など得意な事には率先してやって頂き、職員はお礼の言葉を必ず伝えるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来設時には最近の様子を伝え、ご本人が居心地の良い場所に慣れるよう一緒に考えて頂いています。受診にもご家族が同行され、ご本人の状態を把握して頂くこともあります。行事への参加もお願いし、ご本人との関わる時間も大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にもご友人やご親族の方にも来て頂けるよう声をかけさせて頂いています。近隣のスーパーやコンビニにも買い物に行き、馴染みの人や場所との繋がりを続けていけるよう努めています。	墓参をはじめ馴染みの場所には家族が連れ出してくれますが、「頻度を高めることが必要かも」と危惧されるときは、職員から「私たちが～」との意見もでていて、本件に熱心なことが伝わります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、会話やレクを通じて関わりが持てるよう支援しています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際には「また何かあれば」と声をかけさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の関わりの中で、言葉や行動からご本人の思いや意向をくみ取るよう努めています。	以前の職場で洗い仕事をしていた人には食器洗いをしてもらえるよう支援したり、「事務がやりたい」という人には切手貼りや封筒詰めを手伝ってもらうほか、利用者の意向でパイナップルを植栽した例もあることから、把握と実践が進んでいると映ります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には今までの生活歴や馴染みの物を聞き取り、続けていけるよう努めています。入所後も普段の会話から今まで大切にしてきたことなどを聞き出しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態や変化を個々の記録や連絡ノートを活用して職員が把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご本人の意見を伺いながら、職員同士で必要な支援について話し合っています。	職員が実践メニューとゴールを掴みやすいよう、記録の脇に短期目標とサービス内容を貼っています。前回「家族にサービス担当者会議へ加わってもらう」との目標を立てましたが、他職種の出席に留まっていて、家族には主に電話で意向や要望を確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノートに記入し、情報共有に役立てています。書く人が固定しているので皆で記入していきたいです。ご本人の発言をそのまま記載してくれているときは介護計画に見直しに役立っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方のキーパーソンの場合や薬の調整がある時は施設の協力医以外でも出来る限り対応するよう努力しています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生との交流や中学生の職場体験の受け入れをしています。公民館祭りへの参加したり、近所のスーパーやコンビニへ買い物に行けるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に今までのかかりつけ医か施設の協力医を選んでいただいています。協力医には月1回は受診か受薬に行き、状態について相談しています。	家族は「この位はやりますよ(受診支援)」と関係継続に協力していただき、これまでのかかりつけ医を続ける人が半数程います。医療情報は介護記録で残し、家族には電話や面会で伝え共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1日、看護師が出勤するため気になったことは記入し、変化などにはマーカーを引き、状態を伝えています。指示やアドバイスも頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には病院の相談員と連絡を取り、経過を聞いています。必要があれば様子を見て伺っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については家族と話し合っています。職員間でも話し合い、方針を共有しています。訪問看護の講習会を開いています。	看取りについては、家族、本人が希望した場合は「やりましょう」と職員間で合意できています。職員も5、6名は参加する運営推進会議に、訪問看護師を招いて看取りの講話を受けたときには職員だけでなく家族にも貴重な機会と成りました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルが事務所にあり、職員は周知しています。消防署に来て頂き、救急救命の講習をして頂きました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、消防署より指導して頂いています。実施後には職員で改善点などを話し合っています。運営推進会議でも災害時の対応について話し合い、意見を頂いています。	新管理者が運営推進会議に消防署職員を招請したおかげで、手順や避難方法、事業所内での危険箇所等について丁寧な解説を受けることが叶っています。また「訓練を通じて役割を決めていくとよいのでは～」といった助言も挙がっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や生活歴を考慮して、その人に合った声掛けや対応を心がけています。	言葉遣いに難がある職員もいるため、管理者をはじめ事業所全体で配慮しています。訪問時には「家に帰りたい～」と何度も事務所に訪ねてくる利用者の話に耳を傾けて、「少し待ってみようかな」と思えるように促している様子を視認しており、全体としては穏やかな空気が流れています。	利用者を喜ばせようとする余り、尊厳に係る言動となったり、大きな声となる職員について、皆でフォローする態勢が整うことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事のメニューや散歩コースなど希望に添えるよう、選択できるような声かけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の勤務時間により難しいことはあるが、時間をずらして頂きながらも希望に添えるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装が出来るよう声掛けや介助をしています。スカートやブローチなどおしゃれを続けていられる方もいます。化粧品なども無くなりそうなどときにはご家族へ連絡して持ってきて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	年1回は嗜好調査を行い、希望のものが提供できるよう努めています。毎日の食事作りでは利用者に常に手伝って頂いています。キッチンに立てない方でもテーブルで盛り付けをして頂き、目や鼻でも食事を楽しんでいただいています。	できることは利用者にもやってもらい、買い物も調理も職員がおこなう創成期のグループホームの形態を護っています。嗜好調査や検食、検食簿にも取組みつつ、家庭的で温かみのあるメニューが提供されています。	トマトの皮が硬ければ湯むきするといったきめ細やかな提供ができると、なお良いと思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を使い、足りない方には補水して頂いています。食事中的様子を観察し、必要に応じて食事形態を変えるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助により口腔ケアを行っています。数名、訪問歯科に来て頂き、治療を受けている為、ケアのアドバイスを受けています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、排泄パターンを掴むよう努めています。紙パンツから布パンツへ移行できるようアプローチもしています。	2階のユニットでは定時のトイレ誘導することで布パンツへの移行が増えています。1号館もそれを見習い、僅かですが向上がみられるほか、家族が購入の上届けてくださるパットについても、形状や大きさは職員で随時話し合っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使い、排便管理に努めています。寒天を使ったゼリーや食物繊維が多い食材を使って排便を促しています。必要な方は服薬により排便をコントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の勤務時間により、入浴時間は決まってしまう。熱い湯好き、ぬるい湯好きなど好みを聞き、お風呂の順番を考えています。	週1回湯をはらない日を設けていますが、個々の利用者は1日おきの入浴ができ、清潔を保っています。浴槽が民宿並みに広く、仲が良い同士へ職員が声を掛けて、2名で一緒に湯に浸かることもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入室時間はご本人に決めて頂いています。就寝前の準備(歯磨きなど)に時間をかける方は早めに居室へ案内し、納得いくまでやって頂いています。人形と一緒に寝る事で安心する方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	発作時の頓服薬の取り扱いが直ぐにわかるよう表示しています。薬の変更時には記録し、医師や薬剤師、看護師に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションよりも仕事をしたいという利用者には裁縫や家事仕事、事務仕事、畑仕事を手伝って頂いています。得意な事をして頂き、感謝の気持ちを伝える事で張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には散歩や買い物に出かけています。回転寿司や市場等、少し遠出をする事もあります。	「かつば寿司に行きたいよ」「今年は運動会やらないの?」といった声が自然に出ていて、利用者は運営推進会議の場でも「浜岡の寿司屋がいいよ」と意見が言えています。また買い物好きな人は隣にあるコンビニエンスストアに週に何度も出かけています。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理していますが、要望があればコンビニやスーパーに嗜好品を買いに出かけています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば出来る限り対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるよう清潔に気を付け、整理整頓しています。室内は壁画、玄関は鉢植えで季節感を出しています。	明るい光と涼しい海風も入っているリビングには季節の移ろいを感じることができる貼り絵や、濃淡の技巧が素晴らしい塗り絵掲示があり、レクリエーションの充実さが感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席以外にもソファを置き、好きなところで思い思いに過ごせるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っている家具や日用品などを入所時には持ってきて頂き、安心して過ごせる居室にしています。状態により危険だと判断した時にはご家族と相談して持ち帰って頂き、安全な居室にしています。	編み物が得意な利用者の居室には毛糸を束ねるための紐が下がっていて、利用者本位な暮らしが覗えます。夏になると「白い靴をだそうかな」と思案する人は好みの靴箱を積んでいて、辞書やカセットデッキの持ち込みもあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はすべてバリアフリーになっています。トイレなどわかりにくい所は立体的に表記することで解りやすく工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295800060		
法人名	(有)政経		
事業所名	グループホーム牧之原波津の家（2号館）		
所在地	静岡県牧之原市波津1324-17		
自己評価作成日	平成30年6月25日	評価結果市町村受理日	平成30年8月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2295800060-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成30年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人に寄り添った介護を目指しています。 残存能力を活かして生活できるよう支援していきます。 地域の中で暮して行く事を目標に、地域との関わりに力を入れていきます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年法人内の異動で新管理者を迎え、中学生の体験学習を本年初めて受入れたほか、初任者研修の実習体験や高校の部活動との協力関係も始まり、異世代交流が活性化しています。また裏の畑のオーナーが小学校に貸出しをしたことから、子どもたちとの交流も生まれています。いずれも1日限りではなく、学校帰りや授業を通じて来訪数を重ねているの真摯な関わりで、特に小学校は他の学年との関係にもつながりが生まれ功奏しています。また利用者の意向でパイナップルを植栽した例や、「事務が～」という人には切手貼りや封筒詰めを手伝ってもらっていることから、利用者本位の実践が進んでいることが観えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと楽しく、自由にありのまま、地域と関わりを持って仲間と一緒に暮らす」という理念を持ち、事業所内にも掲示することにより、職員間でも共有できるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣施設へ訪問したり、小学生との農業体験・交流会の機会を作っています。中学生の職業体験も受け入れており、地域密着型を心がけています。地域の公民館祭りや祭典、運動会にも参加や見学をさせて頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や防災訓練を通じて認知症の人の理解を深めて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や行政、ご家族に参加して頂き、施設での取り組みや現状を説明し、問題点があれば意見を頂き、良い取り組みには賛同して頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いています。介護相談員の派遣もあり、利用者様からの声を取り上げて頂いています。包括支援センターとの連携も大切にしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎週の朝礼で身体拘束についての教育があり、職員も意識しています。3ヶ月に1度、身体拘束適正化委員会を開き、身体拘束による弊害や具体的な行為について学んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼では系列グループの問題点も共有し、同じことが施設で起こらないよう注意し合っています。言葉の虐待に関しては職員同士で注意し合える環境作りに努めています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議や本部の研修で学ぶ機会がある。現在、後見人が付いている方もいるので職員も多少の理解が出来てきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入所の際、説明し、納得を得て印を頂いています。その後も疑問があればその都度お答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をはじめ、日頃から何かあれば意見を頂いています。意見箱も設置しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やフロア会議で意見や提案を話し合っています。個人面接も行い、直接意見を伝えてもらう事もあります。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者による個人面談や、日常の業務態度により個人評価を行い、賞与に反映しています。資格手当も充実しており、やりがいに繋がっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	朝礼や職員会議で研修しています。外部の研修が有る時には声をかけ合い、参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流を持ち、自施設のサービス向上に努めています。ケアマネ連絡会へも参加し、他事業所とネットワークを築いています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている事や不安に思う事を伺い、ご家族とも連携し、少しでも軽減できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの意見も聞きながらサービス内容を考えています。来設時にはコミュニケーションをとり、要望など言いやすい関係づくりを目指しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを提供する時には本人や家族の要望を聞き、必要なサービスを話し合って決めています。必要に応じてプランを変更しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事仕事をしたり、レクや食事など行動を共にして生活しています。農作業や料理など得意な事には率先してやって頂き、職員はお礼の言葉を必ず伝えるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来設時には最近の様子を伝え、ご本人が居心地の良い場所に慣れるよう一緒に考えて頂いています。受診にもご家族が同行され、ご本人の状態を把握して頂くこともあります。行事への参加もお願いし、ご本人との関わる時間も大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にもご友人やご親族の方にも来て頂けるよう声をかけさせて頂いています。近隣のスーパーやコンビニにも買い物に行き、馴染みの人や場所との繋がりを続けていけるよう努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、会話やレクを通じて関わりが持てるよう支援しています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際には「また何かあれば」と声をかけさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の関わりの中で、言葉や行動からご本人の思いや意向をくみ取るよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には今までの生活歴や馴染みの物を聞き取り、続けていけるよう努めています。入所後も普段の会話から今まで大切にしてきたことなどを聞き出しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態や変化を個々の記録や連絡ノートを活用して職員が把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご本人の意見を伺いながら、職員同士で必要な支援について話し合っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノートに記入し、情報共有に役立てています。書く人が固定しているので皆で記入していきたいです。ご本人の発言をそのまま記載してくれているときは介護計画に見直しに役立っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方のキーパーソンの場合や薬の調整がある時は施設の協力医以外でも出来る限り対応するよう努力しています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生との交流や中学生の職場体験の受け入れをしています。公民館祭りへの参加したり、近所のスーパーやコンビニへ買い物に行けるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に今までのかかりつけ医か施設の協力医か選んでいただいています。協力医には月1回は受診か受薬に行き、状態について相談しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1日、看護師が出勤するため気になったことは記入し、変化などにはマーカーを引き、状態を伝えています。指示やアドバイスも頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には病院の相談員と連絡を取り、経過を聞いています。必要があれば様子を見るに伺っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については家族と話し合っています。職員間でも話し合い、方針を共有しています。訪問看護の講習会を開いて頂いています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルが事務所にあり、職員は周知しています。消防署に来て頂き、救急救命の講習をして頂きました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、消防署より指導して頂いています。実施後には職員で改善点などを話し合っています。運営推進会議でも災害時の対応について話し合い、意見を頂いています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や生活歴を考慮して、その人に合った声掛けや対応を心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事のメニューや散歩コースなど希望に添えるよう、選択できるような声かけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の勤務時間により難しいことはあるが、時間をずらして頂きながらも希望に添えるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装が出来るよう声掛けや介助をしています。希望を出来るだけ考慮した服装で過ごして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年1回は嗜好調査を行い、希望のものが提供できるよう努めています。毎日の食事作りでは利用者に常に手伝って頂いています。目や鼻でも食事を楽しんでいただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を使い、足りない方には補水して頂いています。食事の様子を観察し、必要に応じて食事形態を変えるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助により口腔ケアを行っています。数名、訪問歯科に来て頂き、治療を受けている為、ケアのアドバイスを受けています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、排泄パターンを掴むよう努めています。こまめにトイレ誘導を行う事により、パット使用量は減ってきています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使い、排便管理に努めています。寒天を使ったゼリーや食物繊維が多い食材を使って排便を促しています。必要な方は服薬により排便をコントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の勤務時間により、入浴時間は決まってしまう。熱い湯好き、ぬるい湯好きなど好みを聞き、お風呂の順番を考えています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入室時間はご本人に決めて頂いています。就寝前の準備(歯磨きなど)に時間をかける方は早めに居室へ案内し、納得いくまでやって頂いています。人形と一緒に寝る事で安心する方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	発作時の頓服薬の取り扱いが直ぐにわかるよう表示しています。薬の変更時には記録し、医師や薬剤師、看護師に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に1回の外出支援などで外食や少し遠くへ出掛け、リフレッシュして頂いています。また、裁縫や草取りなど個々の得意な事を活かしてお手伝いをお願いしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には散歩や買い物に出かけています。回転寿司や市場等、少し遠出をする事もあります。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理していますが、要望があればコンビニやスーパーに嗜好品を買いに出かけています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば出来る限り対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるよう清潔に気を付け、整理整頓しています。室内は壁画、玄関は鉢植えで季節感を出しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席以外にもソファを置き、好きなところで思い思いに過ごせるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っている家具や日用品などを入所時には持ってきて頂き、安心して過ごせる居室にしています。状態により危険だと判断した時にはご家族と相談して持ち帰って頂き、安全な居室にしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はすべてバリアフリーになっています。トイレなどわかりにくい所は立体的に表記することで解りやすく工夫しています。		